

山辺町の社会資本整備総合交付金を活用した道路整備

～地域コミュニティ強化と安全安心な生活環境整備～

…平成21年度から平成25年度までの5年間の事後評価…

山辺町では安全で快適な交通環境と利便性の向上を目指して、町道で幅員確保が困難な道路の改良並びに側溝補修等の事業を進めております。財源としては、国の補助金制度や、町の単独事業で取り組んでいるところです。

国の補助金制度に社会資本整備総合交付金事業というものがあり、その中で事業の目的を明らかにし、達成状況とその効果を検証していく「目的達成型」と、市町村による「直接要望制度」があります。

町では「直接要望制度」を活用し【地域コミュニティ強化と安全安心な生活環境整備】という整備方針を掲げ、平成21年度から平成25年度までの五カ年で整備に取り組んだものです。

このたび、要望事業が完了したため、当初目標に対する達成度をお知らせします。

○町道整備の目的達成状況について

目的及び効果：子供から高齢者まで安全で手軽に地域活動ができるよう、既設道路を整備・補修し、人と車が共存可能な道路として歩行者の安全・通行車の快適性・近隣住民への振動解消等、住みやすく活力ある地域にすることが期待されます。

事業期間：平成21年度～平成25年度（5年間）

整備目標：有効幅員5.5m以上の町道整備延長の増加。
舗装町道総延長に対する有効幅員5.5m以上の延長で割合を算出し27.7%から28.9%に増。

実績値：舗装町道総延長132,584.2mのうち有効幅員5.5m以上の町道延長の割合として

平成21年度当初 27.7% (36,730.8m)

実績として、

平成25年度末 29.1% (38,646.9m)

5年間で 1,916.1mの増 (年間平均383.2m)

となりました。

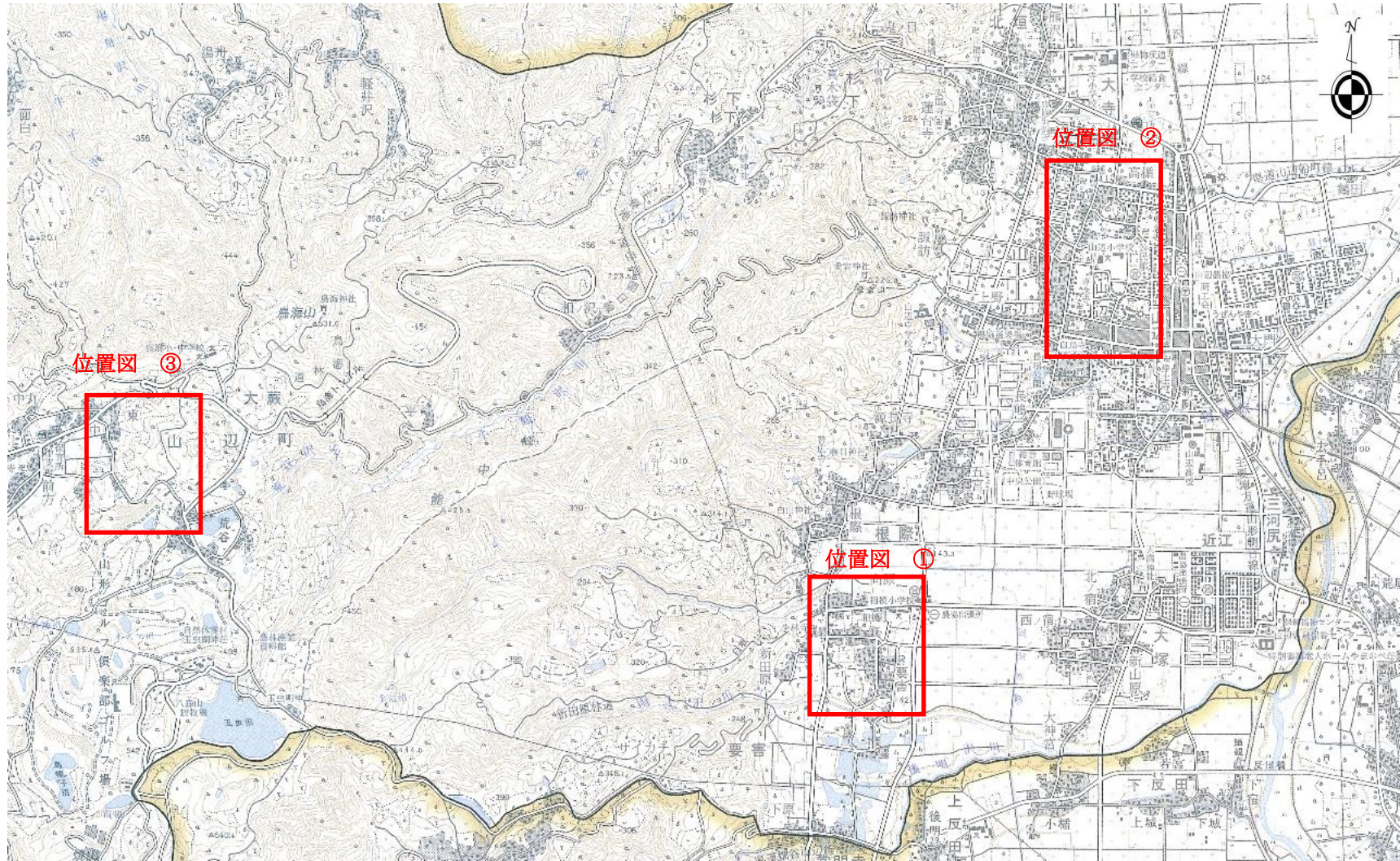
評価としては、適正に計画を進められたため目標値を0.2%上回り達成することができました。

○具体的な5ヶ年の事業

- ① 町道高楯前小路線（路肩改良）
- ② 町道西町高楯線（路肩改良）
- ③ 町道駒場新田原線（路肩改良）
- ④ 町道東荒谷線（路肩改良）

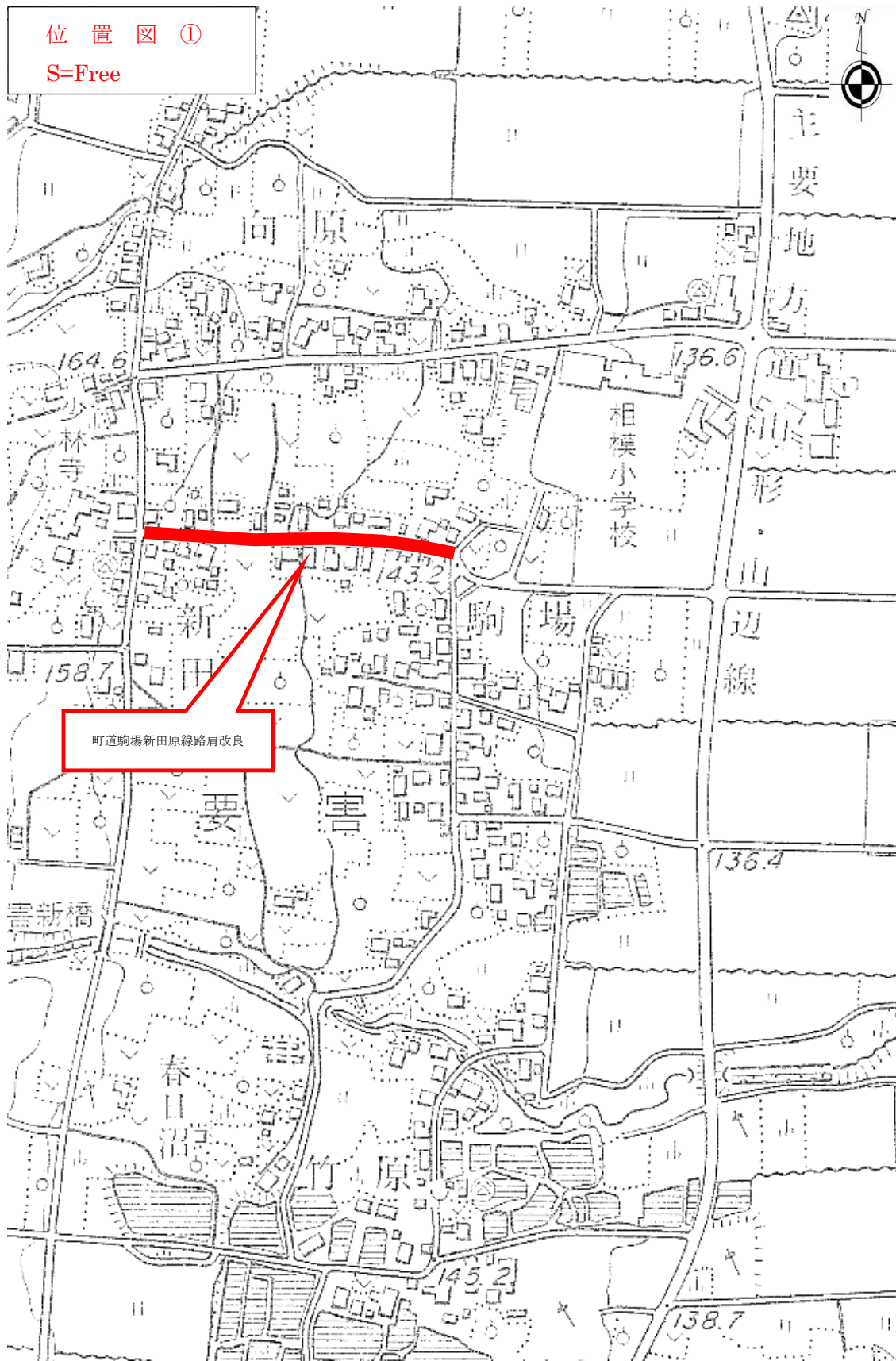
となっております。側溝整備等による路肩改良を行い、有効幅員を確保し歩行者の安全・通行者の快適性の向上を図りました。

事業箇所位置図 (S=Free)



位置図 ①

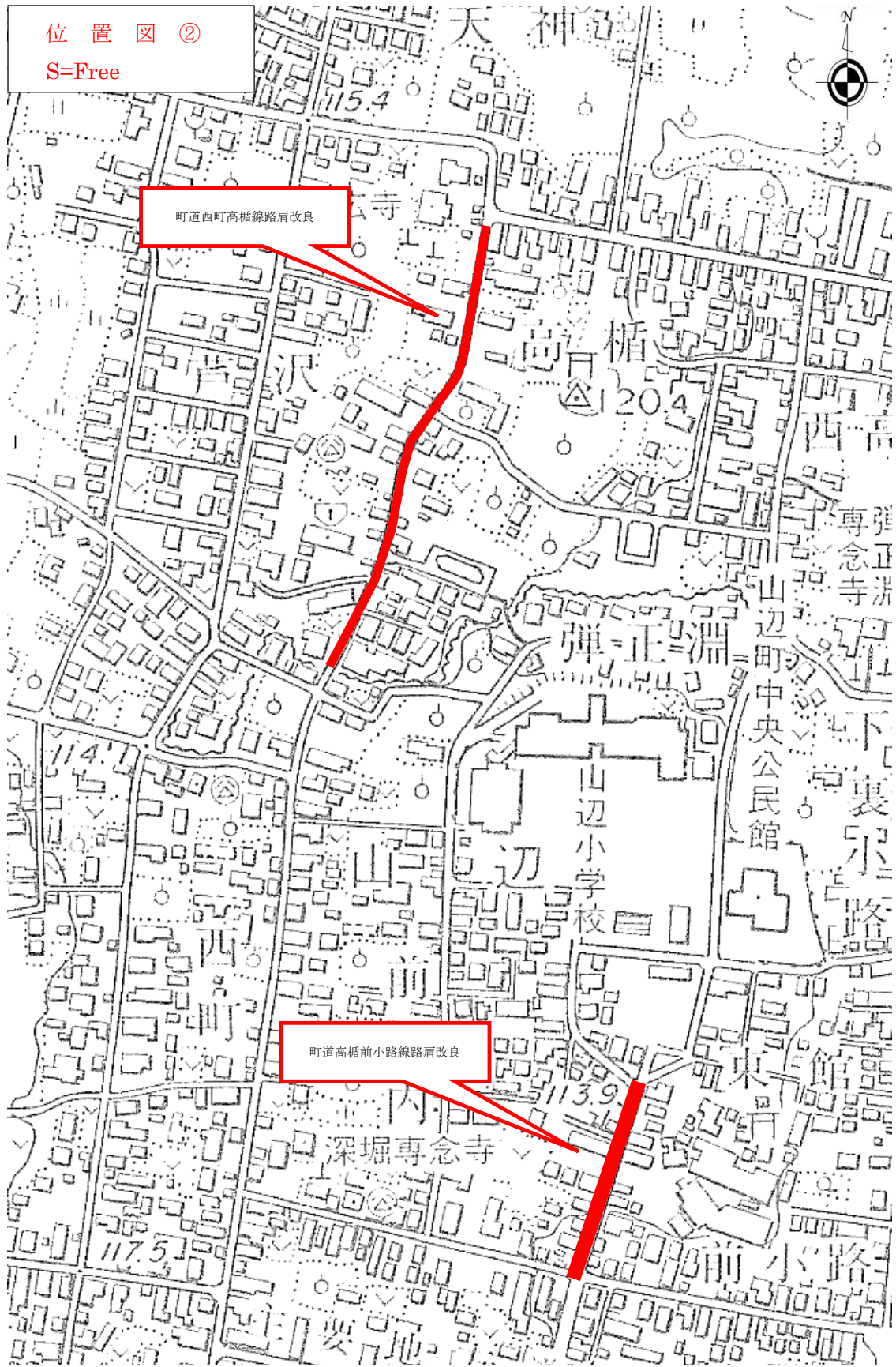
S=Free



町道駒場新田原線路肩改良

位置図 ②

S=Free

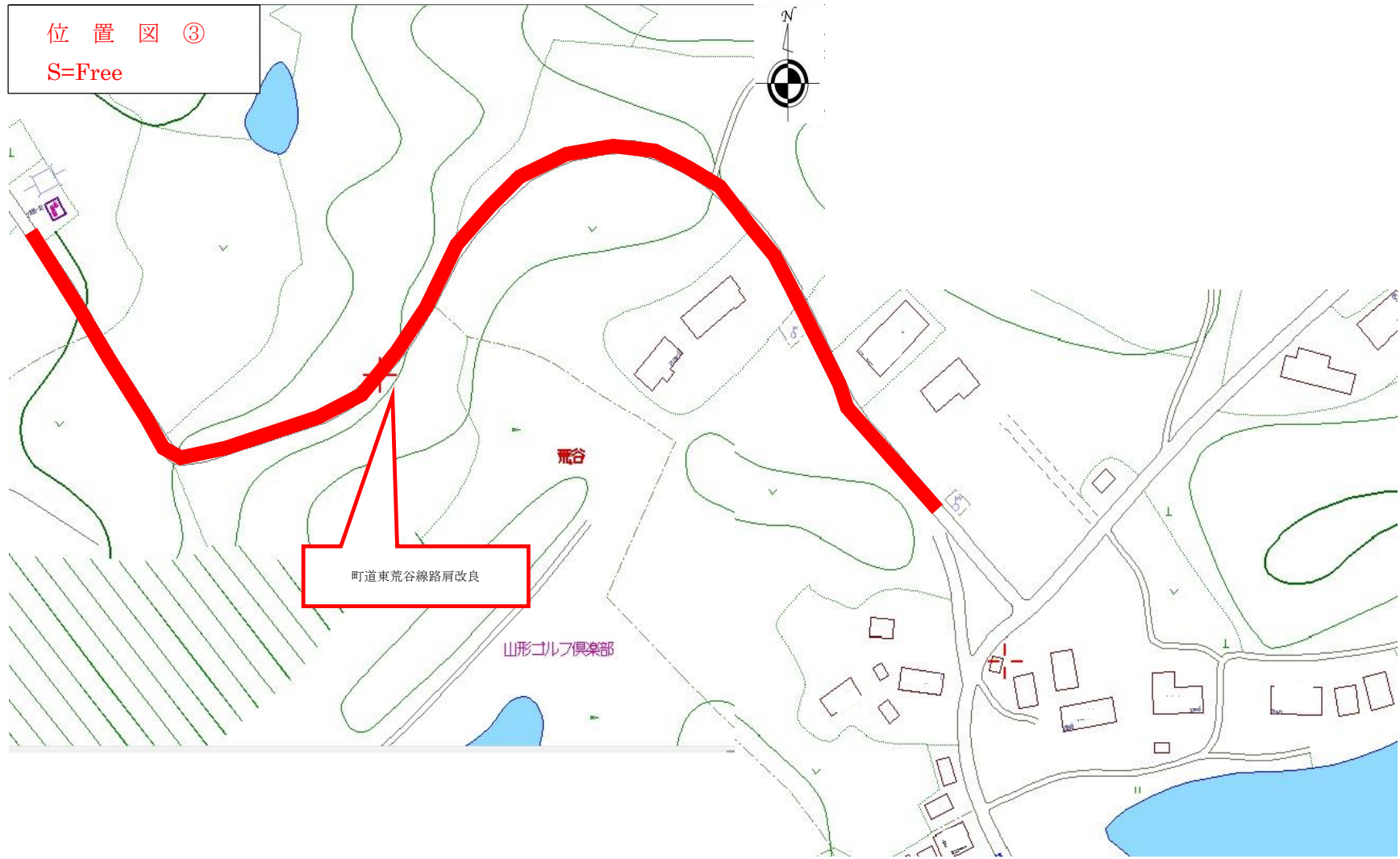


町道西町高橋線路肩改良

町道高橋前小路線路肩改良

位置図③

S=Free



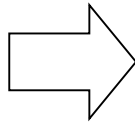
町道東荒谷線路肩改良

荒谷

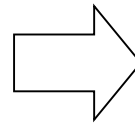
山形ゴルフ倶楽部

代表的な整備例

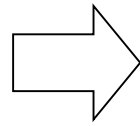
町道高楯前小路線



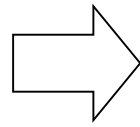
側溝を整備したことで、路肩部が広くなり歩行者の安全・通行者の快適性向上が図られました。



町道西町高楯線



側溝を整備したことで、路肩部が広くなり歩行者の安全・通行者の快適性向上が図られました。



社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成28年2月16日

計画の名称	8 地域コミュニティー強化と安全安心な生活環境整備		
計画の期間	平成21年度 ～ 平成25年度（5年間）	交付対象	山辺町
計画の目標	狭隘な町道の整備を行うことにより、子供から高齢者まで安全で手軽に地域活動ができる歩行空間の確保及び安全・快適性の向上を図る。		

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 有効幅員5.5m以上の道路延長を、H21の27.7%からH25には28.9%を確保し歩行者の安全・通行者の快適性の改善を図る。 死傷事故件数を24件（H21）から22件まで下げる。
----------------	---

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H23末)	最終目標値 (H25末)	
① 有効幅員が5.5m以上確保されることで、安心・安全な走行が可能な道路延長比率。 (安全道路整備率) = (整備済町道延長) ÷ (全舗装町道延長)	27.7%	28.2%	28.9%	
② 死傷事故件数 町道における年間の死傷事故件数	24件	23件	22件	

全体事業費	合計 (A+B+C)	117百万円	A	117百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%
-------	------------	--------	---	--------	---	------	---	------	---------------------------	------

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期
担当課で、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その要因を分析した。	
公表の方法	
町のホームページによる公表	

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H21	H22	H23	H24	H25		
9-A1	道路	一般	山辺町	直接	-	市町村道	改築	(2) 高楯前小路線 西館	路肩改良 L=133m	山辺町						22	
9-A2	道路	一般	山辺町	直接	-	市町村道	改築	(1) 西町高楯線 西町・高楯	路肩改良 L=346m	山辺町						40	
9-A3	道路	一般	山辺町	直接	-	市町村道	改築	(他) 駒場新田原線 要害	路肩改良 L=255m	山辺町						28	
9-A4	道路	一般	山辺町	直接	-	市町村道	改築	(他) 東荒谷線 大蔵	路肩改良 L=398m	山辺町						28	
											小計（道路事業）					117	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・有効幅員が5.5m以上確保されることで、歩行者の安全・通行者の快適性の改善が図られた。 ・有効幅員が5.5m以上確保されることで、死傷事故件数が24件（H21）から23件まで下がった。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①安全道路の整備率	最終目標値	28.9%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成した。
		最終実績値	29.1%		
	指標②死傷事故件数	最終目標値	22件/年	目標値と実績値に差が出た要因	道路の移管に伴い、優先道路区分に変更が生じた交差点における事故件数が増加したため。
		最終実績値	23件/年		
	指標③	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項（今後の方針等）					

(参考様式3)

(参考図面) 活力創出基盤整備

